



利根山光人

Toneyama Kojin

第130号 2026年7月1日

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

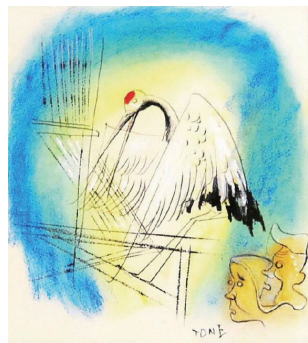
〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

まっりに見た生命力と 民衆のエネルギー

マヤ文明などのメキシコ古代遺跡に見られるプリミティブ(=原始的)なものに魅了されていた利根山は、日本各地の民俗芸能の中にも同様のものを感じ取ります。それは、現代文明の発展と引き換えに人類が失った祈りに満ちた生命力であり、民衆のエネルギーでした。

1972年、初めて北上で鬼剣舞と鹿踊を鑑賞した利根山は、のちに「私はそのとき何かゾクゾクするような日本の血を、原始の血を……それは言ってみれば縄文の血のさわぎをかんじた。そしてこれは日本人の民俗の原点のようなものだと思った。」(利根山光人「壁画『日輪』をめぐる北上の芸能と友情と」1982,「街・きたかみ」24号p.19より引用)と述懐しています。



民話シリーズより
《鶴女房》水彩

それ以来、利根山は東北をはじめとする日本各地の郷土芸能に取材した作品を発表するようになりました。特に、北上周辺に伝わる鹿踊をテーマとした油彩の大作は数多く、独特な風貌が抽象化されたダイナミックな表現は、当館のシンボリック作品である《日輪》にも使われており、一種の「利根山らしさ」を感じさせるものとして親しまれています。

本企画展では「日本のまつり」をテーマにした作品群を取り上げ、利根山の目を通した全国各地の民俗芸能の絵画や版画を紹介します。また、同じく日本人の心にあたたかく響く「民話シリーズ」も展示します。雑誌の表紙を飾った民話シリーズはユニークで親しみやすく、キャラクターを生き生きと描写しているので、小さなお子さんと一緒に鑑賞を楽しめるのではないのでしょうか。

北上を愛した利根山光人の画業をこの機会に改めて認識していただきたいです。

令和8年度中期企画展 2026年7月4日(土)~9月13日(日)



《ねぶた》水彩、パステル

開館30周年記念
利根山光人
日本のまつりと
民話

関連展示

光人さんの見たまつり

会場:北上市生涯学習センター内

会期:7月4日(土)~9月13日(日)

夏まつりシーズンにぴったり! 鬼剣舞や鹿踊はもちろん、日本各地の利根山の見た・描いた民俗芸能について紹介します。

「花祭」や「唐津くんち」など、利根山を魅了した各地の心躍るまつりのスケッチを展示するほか、描かれた芸能についての解説も掲示します。絵画をとおして、おまつり気分を盛り上げましょう!



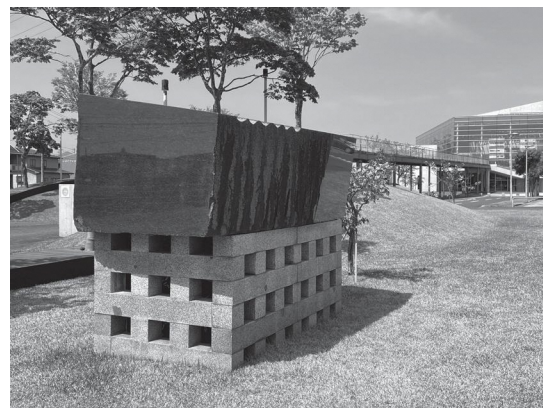
前期企画展 作品鑑賞会を開催しました

6月7日(日)、企画展「利根山光人記念大賞受賞作品展」の関連イベントとして、「作品鑑賞会〜多様性を楽しむ絵の見方〜」を美術館で開催しました。市内外から10名の方が参加し、自らの感性で“推し作品”について語り合いました。参加者からは「楽しかった」「大変勉強になった」という感想があり、「心のうるおい」を感じた方もいらっしゃいました。「またやってほしい」という声もありましたので、今後も機会をつくって対話型鑑賞会を開催する予定です。



【前号からの続き】

2023年の企画展「つくる巨人岩間正男展」では多くのパブリックアート（以下P.A）の写真をポスターパネルで展示することができた。造形作家岩間正男（1926-2013）の仕事は地元の民俗芸能や民話をテーマにした絵画が有名であるが、県内外の公共スペースや施設に大規模な彫刻や壁画を遺している。制作されたのが1960～70年代のものが多く風化し傷んでいるものもあり、まとまった形で鑑賞することはできないが、県内では北上市や遠野市でその多くの作品を鑑賞することができる。岩間が全国的な活動実績を十分持っていないながら、地元岩手を活動の拠点に選んだのは民話、伝説、郷土芸能などテーマとして追っていける材料に事欠かない風土があるということ。そうしたテーマを実に様々な技法を駆使してダイナミックなP.Aをいたるところに作り上げた。その作品群は東北らしいとか古いということではなく、現代アートとして見事に昇華し、今でも誇らしく屹立している点が岩間正男の力量を表している。特に民話の里、遠野の市民センターを中心とした多くのP.Aは圧巻で柳田国男の『遠野物語』



岩間正男の石彫作品《水》は
さくらホールfeat. ツガワ駐車場付近にある
（職員撮影、2023年）

に収められた物語を題材に、壁画をはじめ石や鉄のオブジェが街の象徴として並んでいる。取ってつけたように置くのではなく、P.Aを中心とした街づくりが行われたという点で県内では画期的な例であろう。

遠野物語を題材に制作された石のオブジェの連作は遠野運動公園の児童広場に移設されていた。広場では親子連れが遊んでいた。日常に溶け込む石のオブジェを意識しているのかいないのか... 母親が生まれる前から当たり前にあったオシラサマやカッパの像は今後もずっとそこにあり続けるのであろう。

そうした岩間作のP.Aにはサインやキャプションがないものが多い。アートは特別なものではなく市民に溶け込んでこそという岩間なり流儀らしい。美術館という権威や体制への抵抗という意味を含めた作品や行動で有名な注目の現代アーティスト、バンクシーにも通じるところがあって興味深い。企画展期間中も関係者の間では、厳しい芸術哲学を持っていながら飾らずに市民に溶け込もうとする岩間の姿勢が懐かしく語られた。岩間のP.Aは老朽化や耐震対策で撤去されたもの、現存するものも保存状態が不十分なものが多いが、その業績を今後も顕彰し、作品保護に向けた機会を探る必要はありそうである。

（次号へ続く）



とねやま
アートキャラバン

夏～秋

参加グループ・会場と
お手伝いボランティアを
募集しています

利根山光人記念美術館開館30周年記念事業として、市民の皆さんと利根山作品鑑賞を楽しみ、ちょっとしたアート体験も楽しめる「とねやまアートキャラバン」を実施します。私たちが道具を全部持って、皆さんのもとへ伺います。アートキャラバンと一緒にワークショップをやりたい団体・グループはいらっしゃいませんか。また、会場をご提供いただける場合もぜひ生涯学習文化課にお知らせください。

「みんなでつくろう！カラフルとねやま」と題し、ひらがなの「と」「ね」「や」「ま」のパーツに色を塗ったり、毛糸や色紙を貼ったりしてカラフルに仕上げます。それを12月12日（土）に開催する記念トークイベント会場へ、一つの大きなインスタレーション作品として展示します。興味のある方、お手伝いしたい方は下記へアクセスしてみてください。

お手伝い

お気軽にボラン
ティアメンバーへ
ご登録ください



WS会場・参加団体

夏休みに無料で思い出づくり！
私たちとワークショップをやりたい団
体様は生涯学習文化課へお気軽にご
連絡ください

記念事業

詳細は随時ホー
ムページでお知
らせします

